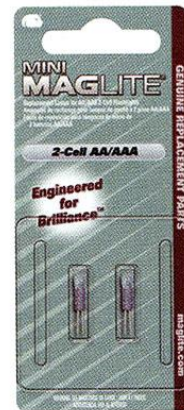


- 普通の、電池をつなぐだけで回るモーターでもプラネを動かすことはできる。現に 2004 年春投影まではこの方式だった。だがとてもうるさく、プラネタリウムの雰囲気をぶち壊すものであった(まるでミニ四駆が走っているような音)。防音のためにモーター・ギア周りには幾度も防音シートをはりグリスなども塗ったが、やはりうるさかった。将来、ステッピングモーターが壊れて手に入らなくなったり、モーター周りの作り方が分からなくなったりした場合に参考にしてほしい。

天球用電球

プラネタリウムの要。しっかりしたものを使いたい。

- ミニマグライト 2cell AA の電球(定格 2.5V?)
ミニマグライト用の電球は普通の電球に比べてフィラメントが小さく、くっきりした星の形となる。天文部では豆電球用の口金と互換性のあるミニマグ用ソケットを製作し、使用している。定格は明記されていないが、もともと単三電池 2 本で使用するライトの電球のため 2.5V~3V 程度で使用するといいただろう。



大人の科学マガジンのプラネでミニマグライト電球使用の報告例もあり。
<http://kagaku-no-tobira.com/proj/001/p001-5.html>

- 普通の電球(定格いろいろ)
ホームセンターなどで手に入るタイプ。
一般にフィラメントは細長く、星の形はいびつになってしまいがち。さまざまなタイプがあるが、ガラス部分がきれいな球になっているものを選ぶこと。
定格もさまざま。2.5V 3.7V 4.8V などがあり、電圧の高い方がハイパワー。
- 五藤光学の EX 電球(定格 2V 2A)
プラネタリウムに適していると一般に言われている。これはフィラメントが小さく、星がシャープに映るため。入手は難しく、価格もひとつ 700 円と高価。定格が 2V 2A と少々特殊なため、扱いには電気の知識・テクニクが求められる(内部可変抵抗をうまく使おう)。
天文部は現在 1 個所持? メールで連絡を取って購入した。
近年入手が困難になっているとのこと。